



上：上流域田園地帯 中：武田尾溪谷 下：三田盆地



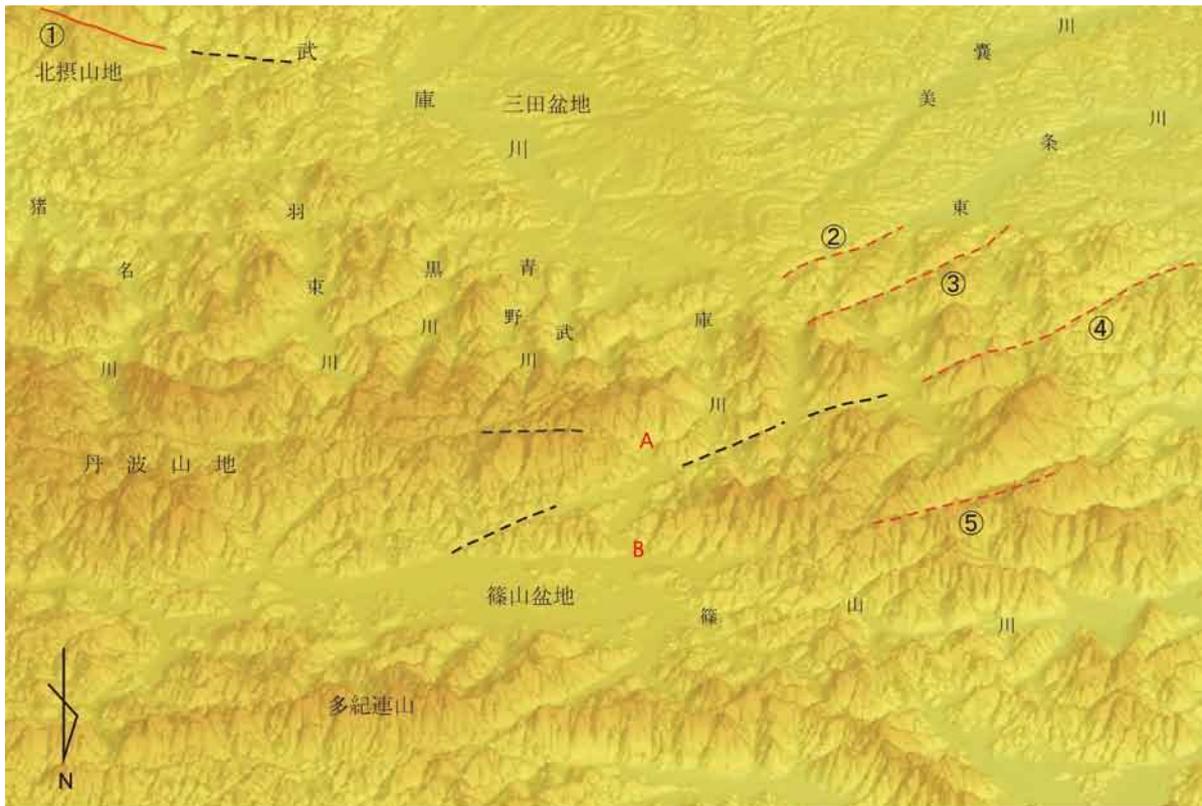
上：谷中分水界　下：皿池湿原



上：サギ草 中：ヒメタイコウチ 左下：イトモロコ (撮影：増田修)
右下：シロヒレタビラ (撮影：増田修)



上：照葉樹林 下：ヨシ原

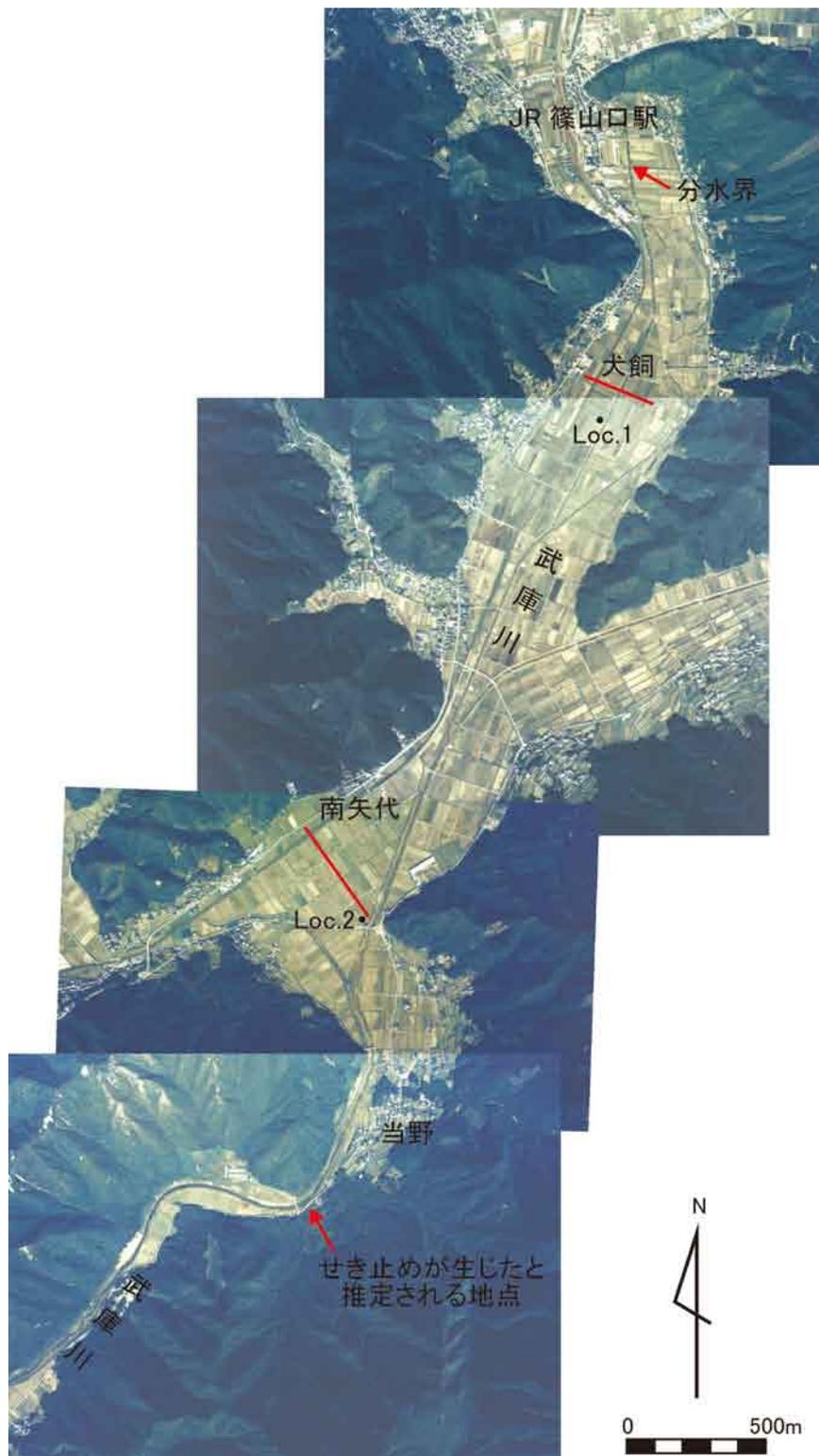


① 十万辻断層 ② 大川瀬断層 ③ 大谷断層 ④ 御所谷 (古市) 断層 ⑤ 住吉断層 A 当野 B 篠山口

口絵 1 武庫川上流域の鳥瞰図

国土地理院発行の 50m メッシュ数値地形図を使用し、Bird View Pro を用いて作成した。標高は水平距離の 3 倍に拡大してある。活断層(赤の実線と点線)やリニアメント(黒の実線と点線)は、岡田・東郷編(2000)「近畿の活断層」に記載されたものの中から、主なものを抜き出して示した。

中・小河川による樹枝状の谷が発達する三田盆地の台地・丘陵と、入り組んだ谷地形が埋め立てられて平坦となった篠山盆地の盆地床のようすが対照的である。三田盆地と篠山盆地の間の丹波山地では、東北東～西南西にのびるリニアメントが明瞭である。その一部は、大川瀬断層、大谷断層、古市断層、住吉断層などの活断層に一致している。しかし、これらの活断層は、最近の数万年間に活動した証拠が認められていない。



口絵2 篠山盆地南西部の谷底平野を流れる武庫川（国土地理院発行 1万分の1 カラー空中写真 KK-75-8, C22A-24・C23B-8・C24A-20・C25A-22 を使用）。

地図上での武庫川の源流部（篠山川支流の安田川との分流地点）を赤矢印で示した。赤線は電気探査の実施側線、黒丸はハンド・ボーリングの実施地点である。当野南方の地点では、約3万年前に支流から押し出してきた土砂で武庫川が堰き止められ、その上流側一帯に湖を生じたと推定されている。